

7: 骨髄異形成症候群(MDS)【小児】

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 山本 将平	東海大学医学部付属病院	総合診療学系小児科学
加藤 元博	東京大学医学部附属病院	小児科
土居崎 小夜子	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児医療センター血液腫瘍科
長谷川 大一郎	兵庫県立こども病院	小児がん医療センター血液・腫瘍内科
三井 哲夫	山形大学医学部附属病院	小児科
吉田 奈央	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児医療センター血液腫瘍科
渡邊 健一郎	地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院	血液腫瘍科
石丸 紗恵	国立がん研究センター中央病院／Princess Máxima Center Trial and Data Center	小児腫瘍科(造血幹細胞移植科)
嶋田 明	自治医科大学	小児科
濱 麻人	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児医療センター血液腫瘍科
長谷川 大輔	聖路加国際病院	小児科
柳 将人	札幌北榆病院	小児思春期科
植村 優	兵庫県立こども病院	小児がん医療センター血液・腫瘍内科
坂田 優	九州大学病院	小児科
金子 綾太	東海大学医学部付属病院	小児科
鈴木 喬悟	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	血液・腫瘍科
慶野 大	神奈川県立こども医療センター	血液・腫瘍科
齋藤 章治	信州大学医学部附属病院	小児科

2. 会議開催記録(2024 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2024.3.22	東京国際フォーラム 4F 407	1. 退任メンバーについて 東海大学の矢部みはる先生と藤田医大の工藤寿子先生からWGご辞退の意向および退任手続きについて報告 2. 承認研究進捗報告 7-5 小児一次性MDS(長谷川大一郎 先生) 一旦課題を取り下げた上で、植村優先生をPIとして再度申請する。Focusは主に前処置強度がMDSに対する移植成績に与える影響についてである。 7-11 小児治療関連MDS/AML(長谷川大輔 先生)

		共同研究者の山本が解析を担当し(もしくは希望があればどなたか若手の先生が)、2024年度中の学会発表を目指す。 7-12 小児MDSに対するCBTの国際共同研究 (吉田奈央 先生) 一旦取り下げている状況。CIBMTRを除き、JapanとEuro cordの共同研究とする方針。正式に決まり次第、再度研究課題申請を行う。 7-13 RCMD—小児とAYAの比較 (濱麻人 先生) ASHで報告済み。6-7月が論文投稿までのdead lineのためそれまでに投稿の準備を行う。 7-14 JMMLに対するHaplo vs. CBT (柳将人 先生) 造血細胞移植学会で報告済み。おそらく論文投稿のdead lineまであと2年程度。できるだけ早急に返信叩き台となるdraftを完成させる。 3. 新規研究 JMMLに対する再移植の検討 (吉田奈央 先生) 課題申請に進む。 Monosomy 7を有する小児MDSの移植成績の検討 (金子綾太 先生)移植成績不良と考えられているが、近年の様々な移植手法により改善が見られている。 2010年以前の古い時期をベースとして近年の成績を比較する。 核型解析は個々の染色体異常でないことから重複しない。全体研究についても焦点は前処置についてであるため、濱先生のRCMD同様、重複しない。申請書を作成し申請に進む。 4. 今後の予定・その他 新規課題の創出について。成人MDSやAMLの課題を参考に新規参加委員の先生から提案していただくのはどうか。 AZAの有無と移植成績については興味深い。少し症例が増えてきたら申請する。
2024.8.28	WEB 開催	1. 新規メンバーご紹介 神奈川県立こども医療センターの慶野大先生、信州大学小児科の斎藤章治先生から新任メンバーとして自己紹介していただいた。 2. 承認研究進捗報告 7-5 小児一次性MDS(長谷川大一郎 先生) RAEBを対象として植村優先生が新規課題申請 PIの植村優先生から概要を説明いただいた。近年では、世界的にもRAEBに対する大規模な解析はなされておらず重要な課題と考える。 山本から対象年について1985年など最も過去からとする必要はないか？ → 時代とともに定義や移植方法、支持療法も異なるためあまりに古い症例は入れなくても良いのではないかと。これはメールでの三井先生からも同様の質問があり、治療方法が概ね同様と考えられる年代で分けて解析することも重要である。 申請を進めていただくが、WGからの5名の共同研究者は山本、長谷川大一郎先生、長谷川大輔先生、吉田奈央先生、慶野大先生となる。 7-11 小児治療関連MDS/AML(長谷川大輔 先生) 長谷川先生から3月の移植学会の抄録について事前に回覧あり。Excelのfileを共有し解説していただいた。以前、学会ベースでまとめた結果と概ね同様であった。MDSとAMLを分けたサブ解析は必要。Grade3-4のaGVHDありでは移植成績が不良。GVHDによる死因であるのか死亡の詳細な確

		認も必要。吉田先生からcGVHDありで再発率が高い点が気になるという指摘があり。時間依存変数を用いた解析であるが再度確認する。臍帯血移植の成績が良いのはなぜか？ 発表までに多変量解析も含めた細かい解析をする必要がある。 MLでも良いので必要な解析について引き続き議論していく。 7-12 小児MDSに対するCBTの国際共同研究(吉田奈央 先生) 一度、たち消えになっていたEuro cordとの共同研究を改めて構築することができ、先日、申請書を提出し承認を得た。Euro cordは症例数が多いが欠損データも多いためその扱いをどうするのか詰める必要がある。データはもらっていないが全体のPIは吉田奈央先生となったため、こちらがイニシアチブをとって解析が可能である。実際にデータをもらってからTrumpデータと合わせて解析する。発表はEBMTで行う予定。 7-13 RCMD—小児とAYAの比較(濱麻人 先生) すでにASHで発表し論文作成に取りかかっている。細胞密度の高いRCMDのみを対象とした移植成績の解析は世界的にもなく有用である。特に、MACとRICで治療成績に差がなく、RCMDに対してもRICを選択できる根拠となることが主な論旨となる。引き続き、作成を進め、投稿へ向かう予定。 7-14 JMMLに対するHaplo vs. CBT (柳将人 先生) 柳先生から事前に、今後、論文作成の方針である旨のご連絡をいただいた。期限もあるため、高い優先順位で進めていくとのこと。 論文化にあたっては共同研究者の先生方にもご協力いただき進めていく。 3. 新規研究 吉田先生ご提案のJMMLに対する再移植 → 現在の国際共同研究課題があるが、申請できるかどうか確認 難しければどなたかと一緒にすすめる。 斎藤先生から MDSに対するAZAを含めた前治療別の解析 → 特にまだAZA使用例が少ないため保留となっている状況を説明 金子先生から-7/7qに対する移植成績 → まずは申請書を作成し是非を確認する。 4. 今後の予定・その他 現状で動いている課題は少しずつ進んでいる。 同時に新規課題を申請しWGとしてのactivityを高めていく。 必要があればMLを利用して随時議論する。 次回の会議は未定であるが、3月の大阪での学会では現地に集まって開催したい。
--	--	---

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2024 年 12 月末時点まで)

(1180)回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

1. 承認研究について

2025 年度以降論文化予定: 7-5 (小児一次性 M D S)、7-11 (小児治療関連 MDS/AML)、7-13 (RCMD—小児と AYA の比較)、7-14 (JMML に対する Haplo vs. CBT)。

2. 新規後方視解析

JMML に対する再移植の治療成績の検討についての計画提出予定。